

第1回今治市中心市街地創生デザイン会議 議事概要

日 時：令和5年8月22日（火）午後1時30分～午後3時35分

場 所：今治市役所 第2別館11階 特別会議室3号

出席者：井口梓、大成経凡、羽鳥剛史、菊川堅吾、近藤佳代、友田康貴、長野和幸、南條仁、
越智智美、白石道子、松野義也、山本優子（第一号委員から第三号委員毎に五十音順）

議事

1. 今治市中心市街地まちづくり構想の実現に向けて
 - (1) 中心市街地の概要
 - (2) 「今治市中心市街地創生デザイン会議」について
 - (3) 本事業の背景とねらい
 - (4) 「今治市中心市街地まちづくり構想」について
 - (5) 今年度の検討内容
 - (6) 今後のスケジュール

議事概要

○「今治市中心市街地まちづくり構想」等について

（次第（1）～（4）について事務局より説明）

【委員意見】

- ・ 各論で検討できるため、6つのエリアに分けて検討していくのはよいと思う。人口減少の問題を考慮して、賑わい創出の観点からエリア毎の目指す方向性や独自性を見いだしていきたい。
- ・ 人口が減った部分を観光で賄おうという話もあるが、イベントばかりではスタッフも市職員の皆さんも疲弊してしまいサステナブルではない。
- ・ 継続的なイベントで人を呼び、まちの良さを知ってもらって日常的に人口を増やしていく。そういう視点も含めて6つのエリアの特性を考えていくのがよいと思う。
- ・ 今治市役所は、住民票やパスポートの申請等のために市民が必ず来る、絶対的な集客施設である。市役所の周りに何を集めていけばヒト・モノ・カネが動くのか、そういったことも考えていければよいと思う。
- ・ 今治商店街は、交通の利便性が低い場所であるため、車両の通行規制を行い、高齢者等の交通弱者でも出歩きやすい環境になれば、賑わいが生まれるのではないかと。
- ・ 高齢者の経験や知恵をもとに、例えば子育て支援のお手伝いをしてもらおう等、自分たちの経験や知恵を活かせる場所と住むところがあるとよいのではないかと。
- ・ 構想が実現化してソフト的な活動を始める場合は、定着してからまちへ波及するまでのプロセスも併せて考えていく必要がある。

- ・ 市の施策やイベントは今まで個別に行われているが、つながないとまちの発展にはならない。
- ・ 6つのエリアごとの戦略は、相乗効果をどう狙っていくかということも重視して内容を検討していく必要がある。
- ・ 人口を増やすのはいいことだが、過密人口がよいわけではない。は一ぱりーの前で日向ぼっこをしたい時に混雑しては落ち着けない。過疎ではない、適度な距離感のある過密さが重要。
- ・ 自転車で生活用品を買いそろえることができる等、来訪者に「住みやすい環境」という切り口を見せながら、足りない機能も把握して対応していくとよい。
- ・ 今治らしさで思い浮かぶのは海や島、里山で、中心市街地のイメージはない。
- ・ 海や島に着目すると、中心市街地の中でも、エリア3（今治港周辺）は今治らしさを演出できる重要な場所だと思う。
- ・ マルシェをボランティアだけで運営し続けるとスタッフの疲労も重なるので、今後、事業化することを検討している。
- ・ 広小路（エリア4内）や今治駅～市役所周辺（エリア2）からマルシェに来ていただくという観点で、JR等も巻き込んで人の動きを分散できないかという検討を行っている。
- ・ 辰の口公園や森見公園等、中心市街地内の公園・広場を利用してマルシェを行うことで、今治港まで来られない人たちでも近くでマルシェがある。そういう環境になれば、住みやすいまちになっていくのではないか。
- ・ 御堀の外周は約1.2kmあるが、思った以上に散歩する人が多い。今治城から今治港まで歩いてもらって、次は、マルシェを通じて今治港から今治駅まで歩いてもらう等、マルシェを軸とした回遊の仕組みづくりができればと考えている。
- ・ 広小路は中心市街地の中では大きなストリートだと思うが、車はほとんど通っていない。これだけの環境があるのにもったいないと思っている。
- ・ およそ半年間（R4.11～R5.3）で約12万人がマルシェに来場している。広小路全面を臨時駐車場や貸し切りイベント会場として占有させてもらえれば、人の動きを分散させてまちを活性化させることができるのではないか。
- ・ マルシェは中心市街地のホットプレイスなので、来訪者がまちににじみ出していく仕掛けづくりが大事になる。
- ・ 今治商店街あるいは今治駅からは一ぱりーにつなげていく動線上で、先行して取組を進めていくことで賑わいがまちに波及していくとよい。
- ・ 今治城周辺は、歩きやすいルートを検討して歩行空間整備に活かすとよいのではないか。
- ・ 【事務局】今治城周辺及び寺町周辺は、今治商店街や今治駅と港をつなぐための補完的なエリアという位置づけで考えている。

- ・ 【事務局】今治港は「ハレ」の場として捉え、賑わいを広小路に延ばすためには、広小路の道路機能の再編も進めていく必要があると思う。シビックゾーンは「ケ」の場であり、日常的に市民が集まり働く場所だと思う。全体のゾーンをどのようにつないでいくか、今後議論いただきたい。
- ・ エリア 5（寺町周辺）とエリア 6（今治城周辺）を繋いでいくのは、非常によいと思う。
- ・ 広小路にはポテンシャルがあると思うが、花園町と同じように広小路の空間整備をしても沿道の空き店舗が埋まるかどうかは、難しいところで、うまくいく保証はない。今治市ならではの課題や条件を見極めて、広小路の運用方法を考えていく必要がある。
- ・ 社会実験や実証実験によって、いかにまちを使う人を増やしていくか。そういうことを議論していくとよいと思う。
- ・ モビリティハブは、どこまでが車で、どこまでが自転車で、どのように歩いてもらうのか。広小路の使い方と併せて議論する必要がある。
- ・ 今治は港町、城下町として人が歩いて発達してきたので、歩きやすい道路が形成されてきたまち。その DNA を生かして歩くまちに戻していきつつ、新しい動きとしてモビリティハブがあればよいのではないか。
- ・ 「mobi（モビ）」という、交通手段をシェアリングしていく取組がある。公共交通よりも自転車で移動した方が早くて、楽しかったりする。シェアしていくことも含めて、新モビリティについて協議していくと面白いと思う。

○今年度の検討内容及び今後のスケジュールについて

（次第（5）～（6）について事務局より説明）

- ・ 広小路の空間再編に関する具体的な内容は、デザイン会議で決めていくのか。
⇒広小路は県道であるため、モビリティに関する部会のメンバーとして愛媛県にも入ってもらっている。部会を踏まえた素案をデザイン会議に提示して審議いただき、結果を部会にフィードバックするイメージで考えている。
- ・ 商店街は、今となってはどう使うかが中心市街地の課題だと思っている。今回、公共空間として記載いただいてありがたい。ぜひ公共空間として使っていただきたい。
- ・ 絵を描いた後にどう実行していくのかが気になる。中心市街地再生協議会では、港のハード整備は完了したものの、それを動かすソフト（運営面）が途中で消えてしまった。そういうことがないように、きちんと進めていける体制であってほしい。
- ・ 今治市民みんなが一緒に使い方を考えて実現化していけるような、社会実験等をベースにしたビジョンづくりができればよいと思う。
- ・ ハード整備の方向性も含めて、将来ビジョンに入れ込んでいかなければいけない。

- ・ クルーズ船が着いたらまちが潤うのと言われたことがあるため、今治港に誘致する考えや計画がないか聞きたい。
 - ⇒今治港は大きな船を止められないため、今治港で客船を誘致することは難しい。物理的な制限はあるが、賑わいにつながる要所として、船舶の誘致は前向きに考えていくべきだと思う。例えば、マルシェの開催に合わせて帆船の「みらいえ」を誘致することは考えられる。
- ・ マルシェの時には、今治港に船が集まって海から人が寄ってくるような状況を創り出してはどうか。行政でもクルーズ船の誘致等を行い、今治港を海の駅として発信する方がよいと思うが、取組は検討しているのか。
 - ⇒クルーザー等を利用してマルシェに来てもらうことについては、規制はあるが港湾関係者とも話をしていく。
- ・ 港湾整備となると大規模であるため、今の港でできることは、ぜひエリア3（今治港周辺）の戦略として入れ込んでほしい。
- ・ 寺町近くに位置する美保町（漁師町）では、個人で遊漁船を持ったり、魚を全国に販売したりと、新しい考え方が広がってきている。閉鎖的なところもあるが、外に向けて動いていく意識づくりのためにも、エリア5に美保町を記載いただきたい。
- ・ 活動を広げていけば、市場で買ったたかれることもないので漁師さんも助かる。
- ・ マルシェの時に、遊漁船をとっている方と連携して、大きなクルーズではなく漁船を何台か回すこともできるのではないか。漁にクラゲは必要ないが、見るのはおもしろくて、網を上げたときにいろいろ勉強もできる。
- ・ 美保町のまち歩きは面白いと思う。良い場所で、フォトスポットも多い印象がある。
- ・ 美保町の景観はすごく良くて、今治のDNA だと思う。
- ・ 行商がもっと復活すると今治らしいのと思う。とってきた魚を奥さんが売りに行く。魚屋やスーパーで買うよりも漁師さんから買う。そういった姿が復活してほしい。
- ・ 本物の漁師町を実感できるエリアとして美保町のまちづくりが進められるとよいと思う。
- ・ 美保町は船の数が多く、全国的に珍しい景観だと思う。ぜひ見てほしい。
- ・ 海外の方が喜ぶエリアなので、今治に来たらまずは美保町を紹介している。
- ・ 社会実験は、今年度1回の予定か。
 - ⇒今年度は1回となる。来年度からは、「今治市中心市街地まちづくり構想」の実現に向けて、社会実験を複数回実施する想定である。
- ・ 10月22日は、イベントの間だけ調査を行うのか。通常時にも調査を行って、普段とイベント実施時で利用者のデータを比較するのも面白いと思う。
 - ⇒多くの人が集まる貴重な機会であるため、イベント開催時に調査を行うこととしている。

- ・しまなみ海道と観光の拠点、サイクリングの拠点を結んだトライアングルゾーンをつくるために、協和汽船（今治港～大島）を復活してはどうか。
- ・関前航路について、朝夕の一便ずつでも下田水港に寄港してほしいと思っているが、現在の棧橋が壊れていると聞いた。修理や移転に費用がかかるため、対応が難しいのだと認識している。県とも連携してトライアングルゾーンが整備できれば日常的に港の周りが賑わって観光の目玉になると思う。また、交通弱者の方や下田水港周辺にいる方の交通手段にもなる。
⇒すぐにお答えすることが難しいため、ご意見として頂戴した。
- ・海側からのアクセスという視点は非常によい。ぜひ検討素材にしていただきたい。
- ・今回、6つのゾーンとして整理いただいて、改めてつなげていかなければいけないと実感した。
- ・東京湾でもクルージング船が走り、船内のレストランで料理を楽しむ方がいて、来島海峡であればもっと良いものが味わえると思っている。
- ・来島海峡急流観潮船には学生を連れていくが、ガイドが魅力をどう語るか、語るセリフで今治の印象がガラッと変わると思う。
- ・富田新港に大型クルージング船が寄港したことがある。次に寄港した時、どうやって中心市街地に誘導するのか、モビリティの視点から考えるのもよいと思う。
- ・今治城は、県外からの観光客が週末に多く来ているため、中心部に誘導する方法も考えていく必要がある。
- ・まちなかの回遊を促すには丹下建築も重要である。ぜひ、活用方法を検討いただきたい。
- ・広小路の副道が無料の駐車スペースに変われば、活用の仕方によっては人が集まってくるのではないか。
- ・建物を文化的な価値のあるものとしてどう議論していくかが重要になる。
- ・余暇はとても重要で、昼休みや夕刻等にどう活用するかという視点から空間の在り方を議論する必要がある。
- ・主目的とは違った活用ができる空間や施設の使い方を検討して、構想に組み込んではどうか。
- ・人を歩かせるための空間づくりを行うためには、歩くルート上にどんな余白と余地をつくっていくかが重要である。まずは、公園や拠点、空間、文化施設等、線上にあるものを整理してつなぎ、空間の在り方を検討する必要がある。
- ・建築士会では丹下建築はぜひ残してほしいとの意見が多い。
- ・夏休み期間に市内の中学生を集めて今治建築のイベントを行った。丹下建築は日本を代表する建築ということを伝えていくために、継続して行いたいと考えている。
- ・エリア毎のまちづくり方針が定まってきた段階で、それぞれの検討項目を一堂に提示し、ネットワークでどう結んでいくか、どうやって連携させていくか議論をする必要がある。

